

ADAPP (Assessment for Developmental Abilities in Psychology and Physiology) データ収集者募集のための説明会の開催

日本感覚統合学会は、2023年秋の完成を目指し、JMAPに代わる新たな発達検査ADAPP (Assessment for Developmental Abilities in Psychology and Physiology)の開発を進めています。現在、検査キットが完成し、長崎にて試験的に実施し、85名のデータを収集したところです。最終的には全国で1200名のデータを収集することを目指しています。標準化において、人口統計にもとづき収集するため、全国各地域の先生方にデータ収集をお願いする次第です。

検査開発委員会では、まず、ADAPPのデータ収集者を募るために、2021年12月26日(日)13時～15時にオンラインでADAPPの紹介をさせていただきます。

この説明会にご参加いただき、データ収集者の条件を満たす方で、データ収集にご協力いただける方に、データ収集者講習会をオンライン(第1期講習会 2022年1月10日(日)10時～16時、その後随時開催)で開催いたします。検査キットが30セットであるため、応募者が30名以上の場合、第1期、第2期・・・と時期を分けて、検査収集のお願いをさせていただくこととなります。この場合、第1期に協力してくださる方は2022年1月10日に、第2期にご協力してくださる方は、2022年5月ごろにデータ収集者講習会を実施させていただくことになる予定です。

なお、2022年5月(第2期)以降にご協力いただける方は、JPAN 感覚処理・行為機能検査の再標準化(JPAN2)のデータ収集にもご協力をお願いする予定です。

多くの方のご協力をお願いいたします。

■データ収集者の条件

- 1, 感覚統合療法認定講習会 A' コースを合格した方 (JPAN 感覚処理・行為機能検査での講習会に限る)
- 2, データ収集者のための ADAPP 講習会 (オンライン (ZOOM) にて) の受講が可能な方
第1回 2022年1月10日(日)10～16時 その後随時開催
- 3, 以下のいずれかの条件でデータ収集が可能な方。
 - ①3～10歳までの定型発達児(障害児のきょうだいは不可)5名以上のデータ収集が可能な方
 - ②2名以上の test-retest ができる方。test-retest とは、1名のお子さんに2回データ収集を行います。具体的には、Aくんのデータ収集を行い、2週間～1ヶ月の間にもう一度、Aくんに検査をし、データをとります。ご自分のお子さんの場合、データ収集が容易です。
 - ③3～10歳のIQ(DQ)85以上の発達障害児(ASD, ADHD, 限局性学習症, DCDの診断がある児)5名以上のデータが収集できる方
- 4, データ収集開始前に、検査が正しく実施できるか否かのチェックをさせていただく場合があります。検査の信頼性・妥当性が損なわれると判断した場合は、データ収集をお断りすることもあります。
- 5, 説明会への参加はデータ収集者の条件ではありませんが、参加されることを推奨します。説明会は今後も開催を行う予定です。

■データ収集者への謝金

- 1, データ収集者には謝金はありません。説明会はオンラインで実施します。参加費、資料代は必要ありません。通信費は受講者負担となります。
- 2, 対象者(お子さん)にはおもちゃ券をお渡しいたします。

■データ収集にかかる時間

検査時間は年齢により異なりますが1時間30分～2時間程度です。2回に分けての実施も可能です。

■データ収集期間

検査道具を個人に3ヶ月間お貸しいたします。その間にデータ収集をお願いいたします。

■データ収集者のメリット

ADAPP が市販されますと、講習会が開催されますが、その講習会に無料で参加できます。

■ADAPP 説明会（オンライン）への参加応募方法

氏名（ふりがな）、職種、職場、職場住所（郵便番号含む）、職場電話番号、PC メールアドレス（携帯電話のメールアドレスは不可）、A コース受講年度を記入の上、メールで検査開発委員会 si-test2006@si-japan.net に 12 月 20 日（月）までに送信下さい。ご質問、不明な点も上記アドレスに送信下さい。